

第4学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 自分のイメージに近づけるように試行錯誤して活動に取り組んでいる。
 - 工作に関心があり、動きに合わせた形を考え、表すことを楽しんでいる。
- 課題**
- ▼ 自分なりの見方や感じ方を広げることが難しい児童が多々いる。
 - ▼ 用具や材料の特徴を自身の表現に生かして活動に取り組めていない。
 - ▼ 表現が荒々しく、粗雑な場面が多々ある。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 造形的なよさや面白さについて考え、自分の見方や感じ方を広げて考える力。
- ◇ 自分のイメージに合った色や形、材料や用具を選び、工夫して表す力。
- ◇ 自分のイメージと向き合い、どんどん良くしていこうと意欲的に取り組む力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- イメージに広がりをもてるように形や色イメージや考えを導入で全体共有する。
- 材料や用具の特徴が伝わるように素材や表現方法を比べて表現の多様さを示す。

言語活動の工夫

- 造形的な見方を提示し、振り返り等で形や色の特徴を言葉で表す機会を増やす。
- グループになって他者の作品の魅力を言葉で伝える。

ICT活用の工夫

- パワーポイントで情報を整理し、作業過程を分かりやすく表示する。
- 実物投影機を使って制作方法や制作ポイントを伝える。

課題解決力育成の工夫

- できなかった原因を一緒に考え、いろいろと試せるように材料を沢山用意する。
- 「発見タイム」を設け、友達の作品の良さや工夫を見付け、自分の制作に生かしていく。

達成目標

- 造形的な面白さや、表したいことについて考え、自分の見方や感じ方を広げることができる。
- 色や形、材料などを生かしてどのように表すかについて考えることができる。